「斗・為・巾のルーツ」

お箏は中国から伝わり、雅楽の楽器として取り入れられました。

今の楽譜の一、二、三という表記以前は、絃一つ一つに名称があり、中世の楽書「教訓抄」（狛近真著）の中に、その記述があるそうです。

そして十一、十二、十三番目の糸には今でもその名称が残されております。

中国の古い文献には箏を「仁智の器」（仁智：いつくしみ深く賢いこと）と呼称しているものもあるとのことです。

現在の表記	元の絃の名前	
一	仁	思いやりと
二	智	才智をもって
三	礼	人を敬い
四	義	道理を守って
五	信	人を欺かず
六	文	書物を尊び
七	武	健気に生きれば
八	斐	その行動の効き目は
九	闌	香り高い賢人となり
十	商	音楽に勤しめば
斗	斗	人の器も大きくなり
為	為	成すことが出来る
巾	巾	そして勢いも膨らむ

参照：ウィキペディア、琴光堂HP、箏の波KOTONONAMIFB記事

右のQRコードでウェブサイトからダウンロード・印刷できます。